

令和8年度 第2回伊勢崎市多文化共生キーパーソン会議

会議録

開催日時 令和8年7月28日（火） 午後6時00分～午後7時30分

開催場所 伊勢崎市役所東館5階第4会議室

参加者

・キーパーソン【8名】

上野 隆男さん（日本）、NGUYEN HUU THAO さん（ベトナム）、
SHRESTHA SHREEGOPAL さん（ネパール）、竹原 ドラさん（ペルー）
NANG NYO NYO HLA（ミャンマー）、丸山 静さん（中国）、
村松 ローズさん（フィリピン）、若林 スエリさん（ブラジル）

・区長【2名】

連取元町区 千吉良 竹雄さん、山王町区 横澤 明さん

・資源循環課【3名】

課長補佐、係長、職員

・事務局（多文化共生課）【5名】

課長、課長補佐2名、職員2名

1 開会

2 区長さんと担当課の紹介

3 テーマの共有

<事務局>

行政区ヒアリングで共通して挙げられた「ごみ出しルールの周知・徹底」について意見交換し、今日の会議の内容を今後の具体的な取り組みにつなげることが目的

4 市の取り組みについて（資源循環課）

<資源循環課>

令和7年度に実施した170行政区の巡回結果からでた課題の共有

- ・外国籍住民のごみ出しに対して、課題があると回答した行政区は約40%

○主な課題

- ・指定日以外のごみ出し、未分別
- ・不法投棄
- ・資源物の持ち去り

- ・国籍がわからず、何語で指導をしたらよいかわからない

○行政区が外国籍住人との共生のために取り組んでいること

- ・外国籍住民の言語を調べ、直接会ってごみ出しの指導をしている（曲輪町一区）
- ・外国籍住民の家にチラシを入れて啓発している（中央町二区）
- ・副環境指導員がバングラデシュ人である（下谷区）
- ・年に1，2回地域の外国籍住民を集めてごみの分別を教えている（百々東区）

○資源循環課へ寄せられた相談

- ・アパートに住む人のルール違反ごみ
- ・事業者と思われる不法投棄

○資源循環課の現在の取り組み

- ・技能実習生へのオリエンテーションの実施
- ・企業に出向いてのオリエンテーションの募集
- ・ルール違反をした人への直接の指導
- ・ゴミステーションへの看板の設置
- ・チラシ等による啓発

5 行政区ヒアリングの概要報告

<事務局>

令和7年度は地区ごとに区長さんに聞き取り調査を行った。今年度は外国人住人の数や割合が特に多い行政区を選び、現地視察を行っている

対象：連取元町区、山王町区、富塚町区、百々東区

結果：分別や収集日などのごみ出しルールが守られていない

ルール違反ごみへの対応やごみステーションの管理の負担が大きい

多言語での資料作成や管理会社・企業と連携した指導が必要

<区長>

- ・多文化共生キーパーソンと資源循環課が集まるこのような機会は大変ありがたい。
- ・地域では毎週軽トラック2台分ほどの違反ごみを処理しており、行政区の負担が非常に大きい。
- ・収集日を守るだけでも違反ごみは3～4割減るのではないか。外国人だけでなく日本人のルール違反もあるが、監視カメラを確認すると外国人と思われるケースが多い現状。
- ・ごみ出しルールを理解し実行してもらえよう、市役所と地域が一体となって全市民へ啓発してほしい。
- ・「混ぜればごみ、分ければ資源」であり、最終処分場の延命のためにも、市民全体でルールを守ることが重要である。
- ・お互いが気持ちよく暮らせる地域づくりが大切であり、キーパーソンが地域コミュニティの中でルールを広めていくことを期待している。
- ・収集日を守らないことでごみが散乱してしまう。

- ・散乱しているごみから外国人によるものと感じられるケースがある。
- ・一部の人のルール違反によって外国人全体への悪い印象につながってしまうことは、お互いにとって不幸である。

6 意見交換

(1) 市として取り組むべきこと

<キーパーソン>

- ・地域の中で、外国人キーパーソンとなる人財を育てることが重要。
- ・地域で協力してくれる外国人に対して、市から感謝を示す支援や報酬があるといい。
- ・全てのごみステーションに収集カレンダーや分別方法がわかるものを掲示した方がいい。
- ・ルール違反には罰金などのペナルティがあることを示した方が抑止力になる。
- ・技能実習生は来日後1か月程度管理団体や組合で日本のルールについて学ぶ機会があるので、そこで十分な指導を行うことが大切である。
- ・ごみステーションに出せないごみの具体例を写真で示すとわかりやすい。
- ・転入時にカレンダーを渡すだけでなく、地域ごとの具体的なルールを説明するガイドンスを実施してはどうか。
- ・資料を受け取っても読まない人もいる。配布するだけでなく内容をしっかり伝えることが重要である。

<資源循環課>

- ・ごみステーションへの収集カレンダー掲示は、問題が多い地域を中心に実施している。
- ・ごみカレンダーは毎年3月に全戸配布している。
- ・ごみ分別アプリを利用すれば収集日や分別方法をスマートフォンで確認できる。

<事務局>

- ・転入時には国籍を問わず、ごみの収集カレンダーや分別冊子を配布しているが、他にも多くの資料を受け取るため内容まで十分見てもらえていないことが課題である。
- ・不動産管理会社と連携して資料を配布する機会を増やすことや、市役所での手続き時には口頭での説明を新たに行うことなどを検討している。

<区長>

- ・転入時は受け取る資料が多いため、入居から1～2年程度の外国人へ改めてチラシを郵送する方法も良いのではないか。
- ・行政区から配布しても、読まれずに捨てられてしまうこともあるため、市からの通知であればより効果が期待できると思う。

(2) 行政区として取り組むべきこと

<キーパーソン>

- ・収集日前夜からごみを出す人見るため、ごみステーションで見守りを行いその場で注

意できるとよい。

- ・市は情報提供までで終わることが多く、実際に地域で教えるのは行政区の役割である。
- ・外国人はルール知らないだけなので、資料を配るだけでなく対面で説明し、コミュニケーションをとることが重要である。
- ・案内文を配布し、何度も訪問して参加を呼び掛けるなど、地道な取り組みを繰り返すしかない。
- ・好事例を区長会などで共有し、他地区へ水平展開していくことが重要である。
- ・地域に住む日本語が話せる外国人を巻き込み、一緒に説明する体制が望ましい。
- ・知らない人の訪問には応じない外国人も多く、仕事の時間も様々であるため、普段からの交流が大切になってくる。
- ・何度も顔を合わせてつながりを作ることが大切であるため、地区の行事で祭りだけでなく、バザーなど参加しやすいイベントも有効ではないか。
- ・行政区や市では担当者の入れ替えがあるため、改善を進めるには専門職のように長期間同じ業務を担当し、継続的に取り組める人材が必要。

<区長>

- ・対面で説明会を開催したいと考えており訪問をしているが、対象者が留守で会えないことが多く、実施方法に苦慮している。

<資源循環課>

- ・今後もキーパーソンと連携し、企業や外国人コミュニティへ直接出向いて、ごみ出しルールの説明を実施していきたい。

※時間の都合上残りの議論は次回の会議に持ち越すこととなった。

7 事務連絡

<事務局>

- ・本日終わらなかった内容について、8月18（火）または8月20（木）を候補日とし、第3回の会議を開く。後日メールで調整する。
- ・「多文化共生フェスティバル2026」を11月15日（日）に開催予定。ステージイベント出演者の紹介と民族衣装着用体験への協力ができる人がいれば、8月21日（金）までに連絡が欲しい。

8 閉会